

第2回会津若松市いじめ問題対策連絡協議会 会議要旨

【日 時】平成29年2月14日（火） 午後3時～午後4時

【場 所】会津若松市栄町第二庁舎 教育委員会室

【出席者】委員10名

廣川会長、安藤委員、新井田委員、川島委員、佐竹委員（代理出席）

加藤委員、矢澤委員、本田委員、小畑委員

会津若松市教育委員会 6名

佐藤教育部長、森川企画副参事、小椋学校教育課長、山本総務主幹

篠崎総務主幹、佐藤主事

- ・いじめについて毎日のように新聞等で報道されている。学校や教育委員会の対応についていろいろな問題が指摘されており、学校や教育委員会は、問題点の見直しが必要である。
- ・本市は「あいづっこ宣言」があるのでこれを生かしていきたい。子どもをよく見つめていただき、未然に防ぐようにしたい。
- ・一番心配しているのは、表面に出てこないSNS。各学校においては、警察等によるSNS等の使い方についての研修を行うなどして、SNSの怖さについて、児童生徒や保護者の理解を深めている。
- ・いじめをする子どもは何を求めているのか？今の子どもたちは、ぶつける先が違うのではないかという感じを受けている。
- ・学年が上がるにつれて、様々なストレスも強くなり、そのことがいじめにつながるのではないか。
- ・愛情が家庭で得られないことなどから、どうしようもない気持ちをぶつけているという面もあるのではないか。家庭の中が平和で楽しかったら、そのような行動にはならないのではないか。
- ・外的なものは分かるが、内的なものは見えないので分かりにくい。子どもが小さいうちは、家庭内でもいろいろと話をするので、様々なことが分かる。中学校、高校になると、気がついたときには行き場がないということになる場合もある。そうなる前に気がついてあげないといけない。いじめの構図は、昔と今で、変わってきているところがあるので、早い時期から対応して救っていきたい。
- ・問題行動が、どんどん目の届かない地下に潜っていつているように思われる。早期にいじめを認知するところから始め、重大事態に発展しないようにしていくことが大切。
- ・いじめをなくすことはなかなか難しい。大人がどれだけ見てあげることができるかが大事だと感じた。
- ・命があったなら、何か手を差し伸べることができたのではないか。報道を見ると事前に何かできなかったのかという思いがある。アンテナを高くしていじめの兆候を把握しておく、そうすれば何かしら手を差し伸べることができ、助けることができたのではないか。いじめは、いつでも、どこでも起こる可能性がある。
- ・放課後子どもクラブに行っている子どもたちは、指導員にいろいろな話をしてくれる。指導員がよく話を聞いてくださり、学校と連携を図っている。

・報道にあったように、アンケートにいじめの記入があったときに、学校はもう一步踏み込んで調べてほしかった。保護者も交えて話し合っほしかった。

・保護者に、心は離さないという話をする。保護者と学校が同じスタンスに立ち、正しい情報を共有することが大切。保護者、生徒、教員それぞれにCAPプログラム (Child Assault Prevention : 子どもへの暴力防止プログラム) に取り組んでいる。SNS等は、情報が速いので迅速な対応をしていかなければならない。